

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 三重県立四日市商業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	○校訓である「至誠」の精神のもと、商業教育・普通教育を通じて知・徳・体の健全な成長を促し、地域と連携しながら専門性の高い社会人を輩出できる学校	
(2)	育みたい 児童生徒像	○社会で活用できる知識・スキル・専門性を備えるとともに、主体性・協働性・行動力を持ちながらも礼儀やマナーをしっかりと身につけている。 ○良好な人間関係を築き、課題解決ができる能力を持ち、社会人として活躍できる人材。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像実現に向け、創意工夫しすべての事柄に前向きに取り組むとともに、生徒一人ひとりを大切に、地域や保護者と連携し、協働性をもって組織として力を十分に発揮できる職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>【生徒】 約55%の生徒が地元企業への就職を希望し、約45%が上級学校への進学を希望している。就職では特に事務職に就くことを望む生徒が多い。安定した学習環境を望み、各種検定や資格取得、充実した部活動に期待している生徒が多い。</p> <p>【保護者】 学力の向上、挨拶やマナー等の社会性の向上を期待するとともに、希望進路の実現には強い関心がある。また、安心・安全の観点から学校からの情報発信の充実を望む声が多い。</p> <p>【企業】 商業関係のスキルはもとより、挨拶や人間関係構築などコミュニケーション能力を備えた人材の提供を望む声が多い。</p> <p>【地域】 地域社会の行事などへの生徒の参加、参画による連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>【家庭】 適切な連絡や学校からの情報提供、相談体制の充実</p> <p>【中学校】 卒業生による説明会参加等を通じて実際の高校生活にかかわる情報の提供</p> <p>【企業】 就職後のアフターフォローと生徒情報の提供</p> <p>【大学等】 高校からの継続した連携、大学の紹介等の機会の設定</p> <p>【地域社会】 開かれた学校経営。地域との連携や共同活動、情報共有機会の増加</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>【家庭】 学校行事やPTA活動への積極的参加。学校教育への理解と支援及び確実な連絡体制</p> <p>【中学校】 適切な進路指導、キャリア教育の実践。生徒についての緊密な情報交換</p> <p>【企業】 積極的な求人、インターンシップ等への理解・協力</p> <p>【大学等】 卒業生の受け入れのほか、講師派遣や高校生への直接指導など高大連携キャリア教育・授業改善への取り組み。</p> <p>【地域社会】 通学等の安全確保や学校への様々な支援、協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学びの基礎診断」をベースとしたエビデンスベースの授業改善、「課題研究」や通常授業内での探究型授業による思考力・プレゼン力等能力開発の方向性に対して高い評価をいただいた。</li> <li>多様な生徒、支援を必要とするケースの増加など数字未達成の部分は家庭の問題も大きく、保護者との連携、カウンセラーなど外部との連携などチーム学校として取り組んでいく必要性を指摘いただいた。</li> </ul>	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の充実が最も急がれる。基礎学力の底上げはもとより、地域と連携した取り組みや商業の授業内容や活動内容の質の向上が求められる。</li> <li>・「人づくり」については酒商の良き伝統を大切にしながら、基本的な生活習慣の改善、確立のみならず質の高いビジネスマナーの習得を本校の武器にしていく。</li> <li>・部活動については学習とのバランスや教員の過度な負担の軽減を考え、精選していく。(三重国体に向けた強化との整合性に課題が残る)</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の実施に向けて、各教科で学習内容の検討や授業力向上の組織的な取り組みが必要。教科会とカリキュラム委員会との連携が必要。</li> <li>・地域連携や課題研究などの効果的な取り組みをさらに進めるとともに、メディアの活用等、広報活動にも積極的に取り組み、本校のPRに努める必要がある。</li> <li>・教員の仕事の偏りや過度な時間外労働の縮減への取り組み、職員間の情報共有・コミュニケーション機会を増やす。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校訓である「至誠」の示す人格形成を大切にしながら、現代社会で求められる資質・能力を把握したうえで「本校の目指す人づくり像」を明らかにしていく。教員自身が、カリキュラムマネジメントに基づき、授業改善、教育改善を考えていく。今年度も生徒の自主性・主体性を向上させる取り組みを進めていきたい。</li> <li>・「思考力」「判断力」「表現力」「課題発見・解決力」「専門性」「協働性」といった「今後の社会で生き抜く力」「社会に貢献する力」を授業、特別活動、部活動などを通して学校教育全体で育んでいく。</li> <li>・狭い範囲の人間関係に留まることなく「地域の大人」「他校の生徒」など「他者」との対話・交流を通じて積極的、主体的な人間性や課題発見・解決力を育む探究活動に取り組む。</li> <li>・国体に向けた部活動の強化と人間力向上のための部活動・特別活動とのバランスを考えて活動に取り組む。その状況で、どのように教員の負担軽減を図るかを考慮していく。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の仕事の偏重を解決するための具体的な方策に取り組む。また、生徒の自主性・主体性を向上させることにより、教員の負担軽減につなげる。</li> <li>・新傾向の資格試験や大学入試制度、新学習指導要領への対応を早急に進める。カリキュラム委員会と各教員との連携を深め、具体的な対策を提示する。</li> <li>・情報マネジメント科の未来図を具体化させ、授業改善・進路指導につなげることで「就職も進学も強い酒商」「多様な進路」「地域貢献できる学校」を内外にPRし、生徒確保と地域における評価につなげる。</li> <li>・資格取得と部活動のバランス、基礎知識習得と思考力・表現力など活用力のバランス、教員の負担軽減のためのスクラップアンドビルドなど、協力してバランスのとれた学校運営の方策を実践していく。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)学びの基礎診断を各学年2回(3年生は1回)実施。 <b>【活動指標】</b> 基礎力診断テストの事前・事後学習を実施。テスト結果を教科指導・進路指導に生かすため勉強会を実施。 <b>【成果指標】</b> 年2回の結果比較で資質・能力の進捗状況を図る。教職員を対象に結果を踏まえた勉強会を実施し指導に生かす。	(1)学びの基礎診断を各学年2回実施し3年間の継続的な指導ができた。診断結果の共有とオンラインでの勉強会を実施	※

	<p>(2)教科会の活用、授業参観週間、公開授業の実施等により授業力の向上を目指す。</p> <p>【活動指標】教科会の活用、授業参観、公開授業を実施。生徒アンケートの実施</p> <p>【成果指標】公開授業延べ 5 日以上、生徒アンケート「授業を理解している」割合が 80%以上</p>	<p>(2)教科会で授業内容の見直しや学力向上の話し合いを行った。授業公開は 11 月に 5 日間実施</p> <p>生徒アンケートでの授業理解度は1年 86% 2 年 92% 3 年 90%</p>	
キャリア教育の充実	<p>(1)生徒一人ひとりの進路実現に向けて具体的な指導・助言を行う。</p> <p>【活動指標】担任面談、外部講師のガイダンス、適性検査などを実施し、早期からのキャリア意識を醸成するとともに、地域行事・インターンシップ・課題研究など探究活動を積極的に行う。</p> <p>【成果指標】外部講師のガイダンスを年間 10 回以上実施、年度末に進路アンケート実施し、進路決定の満足度 95%以上</p> <p>(2)社会で活躍し、地域に貢献できる人づくりを行う。</p> <p>【活動指標】風紀週番制度を社会に出るためのトレーニングととらえ、活動に丁寧に取り組み、生徒一人ひとりの責任感・協調性を養う。</p> <p>【成果指標】当番忘れによるやり直し率 6%以下、遅刻率 0.1%以下、学校生活アンケートで基本的な生活習慣が身についた 95%以上、挨拶など礼儀が身についた 97%以上</p> <p>(3)部活動・生徒会活動の充実と部活動を通じた人づくりを行う。</p> <p>【活動指標】全クラブが活発に活動し、部活動・生徒会活動を通じて生徒の主体性の向上を図る</p> <p>【成果指標】東海大会出場 15 クラブ以上、全国大会出場 10 クラブ以上、学校生活アンケートで「部活動への取り組みが熱心になった」割合が 85%以上。生徒が主体的に活動する生徒会活動。</p>	<p>(1)3 年生 8 回 2 年生 3 回 1 年生 1 回の進路講話を実施。外部講師による講話など進路ガイダンスを年間 13 回実施。進路決定の満足度 97%。</p> <p>(2) 当番忘れや欠席によるやり直し率は 7.6%、前年比-0.6%、特に交代する週初めの当番忘れが多い。遅刻率は 0.19% 去年は 0.24%で少し改善</p> <p>基本的な生活習慣 90% 礼儀は 98%が身についた。</p> <p>(3)今年度は、コロナ禍の影響で東海大会、全国大会ともに中止となり成果を計れない。また、生徒会は 3 年生の事を配慮して、行事を組み直した。</p>	◎
<b>改善課題</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの基礎診断の結果を受けて教員研修を実施したが、その後の授業改善にまで至っていない。</li> <li>・授業アンケートの実施方法や活用方法の見直しが必要。アンケート結果と授業改善の関連が希薄である。</li> <li>・コロナ禍の下での外部講師の招聘方法やオンラインを利用した講演やり方を検討することが必要。</li> <li>・新学習指導要領の実施に向けての準備が不十分である。特に観点別評価の方法を検討する必要がある。</li> </ul>			

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)計画的な教職員研修の実施 【活動指標】教職員対象の人権教育研修会、本校のSCによる教育相談研修会、保健部による応急救護処置等の研修会などの実施	(1)人権教育研修会は3回実施、グループワークによる SC 研修会は中止、保健部研修会はエビ・ペン講習と熱中症・新型コロナ感染症等の予防啓発	
情報提供による信頼の構築	(1)学校案内の充実、ポスターを年1回、チラシを年2回発行。課題研究の各講座に協力してもらい、高校生活入門講座の充実を図る。 【活動指標】在校生の意見を積極的に取り入れ、学校案内やポスター・チラシを作成する。コミュニケーションツールとしてG-suitesを活用する。アンケート結果も加味しながら内容や効果について検証する。入門講座については内容の見直しや情報発信を充実させる。情報マネジメント科の生徒の満足度を調査し検証する。 (2)ホームページやきずなネットでの情報配信 【活動指標】ホームページの更新 月3回以上 きずなネットによる迅速な情報提供の実施	(1) 学校案内、ポスター、チラシは計画通り作成。入門講座は DVD や特設サイトへの QR コードを配布し、コロナ対策で3部構成としたが、合計406名参加。保護者アンケートの結果も良好。情報マネジメント科生徒の満足度は96%。 (2)ウェブ更新はおよそ週1回以上実施、きずなネットでの迅速な情報提供もできた。	※
人権教育・特別支援教育の充実	(1)人権教育を充実し、命を大切に教育を実施する。 【活動指標】学年ごとにテーマを決め、人権HRや講演会を実施する。外部連携によって生徒・教員の人権意識を高める。 【成果指標】各学年、年間2回ずつの人権HRの実施。教員も年間2回の研修を実施する。 (2)特別支援教育委員会や教科担当者会議などを通じて、生徒の状況把握・情報交換・情報共有に努め、合理的な配慮を行う。 【活動指標】特別支援委員会を年間5回以上、教科担当者会議も随時実施し、個別支援計画をたてる。教育相談の共有フォルダーを作成し、生徒情報の共有化を図る。	(1)各学年とも年間2回の人権LHRを実施 教員研修は3回実施 (2)特別支援委員会を年間5回実施 教科担当者会議も学年主導で個別に実施 個別の指導計画・教育支援計画・特別支援教育記録を活用	◎
働きやすい職場環境づくり	(1)総勤務時間縮減のため、時間外労働時間の削減を図る。 【成果指標】 1人当たりの月平均時間外労働 30時間以下 年360時間を超える時間外労働者数 0人 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 (2)夏季休業期間中に学校閉校日を設定し、年次有給休暇等を取得しやすい雰囲気、環境をつくる。 【成果指標】	(1)月平均の労働時間は、15.6時間 年間での100時間越は2人 月45時間越は、延べ37人 (2)年間休暇取得日数10日以上は、ほぼ全ての職員が達成	※

	<p>1人当たりの年間休暇取得日数 10日以上</p> <p>(3)定時退校日、部活動休養日を設定し、総勤務時間の縮減を目指す。 【活動指標】定時退校日を月1回程度実施し、定時に退校できた職員の割合 80%以上 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 80%以上</p> <p>(4)各種会議の短縮、効率化を図る。 【活動指標】放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 95%以上</p> <p>(5)不祥事根絶のためコンプライアンス研修を定期的で開催するなど、職員のコミュニケーションの機会を増やし、働きやすい環境をつくる。</p>	<p>(3)定時退校日に退校できた職員 90% 休養日の実施した部活動 95%</p> <p>(4)60分以内に終了した会議 95%</p> <p>(5)校長が研修を行い、学期毎に3回実施、県教委が指定したネットを使用した研修も全職員が行った。</p>	
<b>改善課題</b>			
<p>・教職員研修は、ほぼ予定通り実施できた。一部グループワークが主体の研修会はコロナ禍で中止としたが、工夫して研修を実施するべきであった。</p> <p>・10月の高校生活入門講座は、台風で延期となった。当日、来られない中学生のためにDVDの作成や特設サイトの設置は効果的であった。校内行事や部活動成果の情報発信は、頻繁に行っているが、授業内容等の情報発信が不足している。</p> <p>・時間外労働時間の削減を図る取り組みを進めているが、毎月特定の人が、部活動や校務分掌の関係で時間外労働が多くなっている。仕事の割り振り等の配慮が必要である。</p>			

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○最重点取組である「キャリア教育の充実」については、教育の目標を達成して、優れた人材を社会へ送り出すことは本校の重要な使命である。また「人権教育・特別支援教育の充実」については、安心・安全な環境で、個に応じた方法で学び、育ち、生活していくことはすべての基盤として大切なことである。</p> <p>○基礎学力診断等のデータや分析資料、あるいは授業アンケート等の調査結果をどう読み込み、どう活用していくかは、教師による差が大きいところもある。外部機関による総合的な分析だけでなく、個々の教師が生徒の実態を踏まえつつ、課題意識をもって分析する方が弱点を把握しやすく、改善につなげやすいこともある。同時に、それら個々の教師の分析や改善の方向性を、学年集団や学校全体に吸い上げて共有することで、全体として学力診断や各種アンケートを活かすことができると考えられる。</p> <p>○校訓の「至誠」については、パンフレット等いろいろなところでうたわれているが、具体的にはどうすることなのか、わかりやすく伝えて考えさせていくことが必要ではないか。</p> <p>○オンラインを利用した学習やホームページ、各種ネットワーク、特設サイト等を利用した情報発信について研究し、進めていく必要がある。</p>
----------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>○生徒の現状から出発し、基礎学力の一層の定着を目指して、学力診断テスト、授業アンケート等の効果的な分析、教科ごとの具体的な改善課題、取組の進捗状況等を、教務部が主体となって把握しながら進めていく。各種アンケートの内容、調査の時期、結果の分析と活用方法等を見直す。(保護者アンケートと同じような内容で生徒の意見を聞いたり、自由記述をまとめたりすることも有効)</p> <p>○情報発信の方法について、SNSとの付き合い方、個人情報の扱い方等について、情報モラル・情報リテラシー・人権教育の観点から、考えさせる機会を作る。</p>
学校運営についての改善策	<p>○人間教育の場として、ホームルーム活動、学年活動、生徒会活動、風紀週番活動、部活動等、あらゆる機会をとらえて、対人関係力を涵養する。人間関係上のトラブルについてアンテナを高くし、学年会、教育相談委員会、特別支援教育委員会、人権教育推進委員会等、それぞれの立場からの情報共有を密にし、適宜、面談等を行う。</p> <p>○道徳教育的な観点から、校訓の「至誠」についても具体的に考えさせ、自分と向き合う機会を持たせる。</p> <p>○一部の教員への業務分担の偏りをなくすため、分掌・学年等で声を掛け合い、繁忙期には業務の分担を見直して肩代わりしたり、手伝い合ったりできる職員集団を構築する。</p>